

これはアストラゼネカ英国本社が2003年4月30日に発信したプレスリリースの日本語訳です。

AstraZeneca PLC 2003年第1四半期業績

“1株当たり利益0.54ドル。通年目標を維持”

ファイナンシャルハイライト (例外項目調整前)

| グループ (継続事業) | 第1四半期 2003 \$m | 第1四半期 2002 \$m | 報告ベース % | 恒常為替 % |
|--------------------------|----------------------|----------------------|------------|-----------|
| 売上高 | 4,735 | 4,346 | +9 | +4 |
| 営業利益 | 1,272 | 1,297 | -2 | -3 |
| 税引前利益 | 1,293 | 1,318 | -2 | -3 |
| 1株当たり利益 グループ | \$0.54 | \$0.55 | -2 | -3 |
| 法定会計 (Statutory FRS3) | \$0.54 | \$0.55 | | |

伸び率は恒常為替レート (CER)

- 売上高は4%増加しました。Losec™/Prilosec™ (日本での製品名: オメプラール)を除く売上高は米国の卸在庫の積み増しによる好影響を受け、23%伸長しました。
- 営業利益は、その他営業利益が対前年度比1億4100万ドル減少したことにより、3%減少しました。前年度のその他営業利益にはSular販売権の売却益が含まれていました。
- 研究開発費ならびに販売費・一般管理費をあわせたコストは恒常為替ベースで4%上昇しました。
- 1株当たりの利益は3%減少し、\$0.54でした。
- Nexium™の売上高は8億3500万ドルでした。米国市場の総処方量に対するシェアは3月に24.1%まで伸びました。
- 2月中旬のカナダでの上市、3月のオランダ、英国での上市後、Crestor™の第1四半期の売上高は300万ドルでした。
- 第1四半期のイレッサの売上高は1900万ドルでした。欧州でイレッサの非小細胞肺癌治療薬としての申請が行われたことを2月11日に発表しました。米国FDAの承認審査完了予定日は5月5日です。
- Symbicort™の第1四半期の売上高は1億2200万ドルでした。欧州で慢性閉塞性肺疾患 (COPD)における使用の相互認証手続きが完了したことを2月10日に発表しました。

最高経営責任者トム・マキロップは次のように述べました: 当社の製品ポートフォリオの転換は予定通り進行しています。すなわち、成長製品や最近上市した製品への堅調な需要が、特許切れによる売上高の減少を補うかたちで推移しています。このような売上達成状況ならびに新製品の発売計画からみて、1月に発表した本年度の財務目標達成に向けての体制は整っています。

London, 30 April 2003

| | | |
|-----------------------------|-----------------------------------|----------------------|
| Media Enquiries: | Steve Brown/Emily Denney (London) | (020) 7304 5033/5034 |
| | Staffan Ternby (Södertälje) | (8) 553 26107 |
| | Rachel Bloom (Wilmington) | (302) 886 7858 |
| Analyst/Investor Enquiries: | Mina Blair-Robinson (London) | (020) 7304 5084 |
| | Jonathan Hunt (London) | (020) 7304 5087 |
| | Staffan Ternby (Södertälje) | (8) 553 26107 |
| | Ed Seage (Wilmington) | (302) 886 4065 |
| | Jörgen Winroth (New York) | (212) 581 8720 |

ビジネスハイライト 伸び率は恒常為替レート(CER)

第1四半期の売上高は4%増加し、営業利益は3%減少しました。1株当たり利益は3%減少し、0.54ドルでした。米ドル安により、報告ベースの売上高成長率は5%プラス影響を受けました。売上高に対する為替変動によるプラス影響のほとんどは、営業コストに対するマイナス影響で相殺され、報告ベースの営業利益ならびに1株当たり利益に対する為替変動によるプラス影響は1%にとどまりました。

2003年第1四半期のその他の営業収益(1500万ドル)は、First Horizon社へのSular販売権の売却益を含む2002年第1四半期の同項目(1億5600万ドル)と比較して大幅に減少しました。研究開発費および販売費・一般管理費をあわせたコストは恒常為替レートで4%増加しました。

第1四半期の売上高成長率は米国で4%、その他の地域で5%でした。予想通り、米国の売上高はPrilosec™, Zestril™, and Nolvadex™の後発品との競合によって影響を受けました。これら3製品の合計の売上高は2002年第1四半期より6億6800万ドル減少しました。しかし、その他の製品は引き続き力強く推移し、売上高の伸びは55%で、上記3製品の売上減を上回るものでした。当社は、これらの製品に対する需要は約35%増加したと推測しています。この増加率の差は、対前年同期と比較して、米国市場における卸在庫の変動によるプラス影響によるものです。当社は、本年第1四半期末には、卸在庫は約4億ドル通常レベルを上回っていた(2002年第1四半期末には約2億ドル)と推測しています。在庫レベルは、今後、第2、第3四半期中に通常レベルの戻ると予想されますが、全体として、通年の売上高に対する当社の予測に悪影響はないと考えています。主にNexium™, Seroquel™, Toprol-XL™ および Atacand™がこの影響を受けています。

Nexium™ の売上高は、米国における堅調な処方需要と卸在庫の積み増しにより136%増加しました。Prilosec™ の第1四半期の売上高は米国で60%減の2億8700万ドルでしたが、ほぼ処方傾向に合致しています。オメプラゾール後発品のマーケットシェアは安定しており、最近ではオメプラゾール製剤全体の処方の約60%を占めています。

循環器製品の売上高は、Zestril™の大幅な売上減にもかかわらず、米国におけるToprol-XL™ (31%増) と Atacand™ (19%増)の処方が引き続き増大したことにより、3%の減少にとどまりました。Crestor™の売上高が第1四半期に初めて計上されました。同製品は2月中旬にカナダで発売され、その後、欧州でオランダと英国で発売されました。

オンコロジー製品(抗がん剤)の売上高は6%増加しました。これは、Casodex™, Arimidex™, Faslodex™ と Iressa™の売上増が、後発品によるNolvadex™の売上減を上回った結果です。Iressa™の売上高は、添付文書の改訂および2002年第4四半期の売上高の急増に続く市場の調整の影響を受け、1900万ドルでした。欧州におけるイレッサの限局型進行性または転移性非小細胞肺癌治療薬としての承認申請が行われたことが2月11日に発表されました。米国FDAによる承認審査完了予定日は5月5日です。Faslodex™ の第1四半期の売上高は2200万ドルでした。同製品の進行乳がんのセカンドライン治療薬としての承認申請が2月に行われました。

第1四半期のその他の製品開発におけるハイライトとしては、米国と欧州において、Seroquel™の双極性障害を伴う躁病の治療薬としての承認申請が行われたこと、ならびに、Nexium™の非ステロイド性消炎鎮痛剤投与患者にみられる上部消化器症状の治療薬としての承認申請が行われたことが挙げられます。

今後の見通し 伸び率は恒常為替レート(CER)

第1四半期の売上高(卸の購買パターン調整後)は当社の予想と合致するものでした。すなわち、特許切れによる予想された売上高の減少が成長製品ならびに最近上市された製品への強い需要によって補われています。

注意: 当社の利益やビジネスの見通しに対する上記の予測的な記述はリスクや不確実要素をともっており、実際の結果はこれらと大きく異なる可能性があります。たとえば、米国におけるオメプラゾールの後発品の売上伸び率、新製品の承認取得ならびに上市の成否(とくにCrestor™、Iressa™(イレッサ)、Exanta™)既存製品の継続的成長、コストや経費の増加、利息率の動き、為替レートの変動、税率の更なる改善、を含むリスクや不確実要素です。これらやその他のリスクや不確実要素については、2002年アニュアルレポートForm20-を含む証券取委員会への有価証券報告書をご覧ください。

売上高

伸び率は恒常為替レート (CER)

消化器

| | 第1四半期 | | CER % |
|------------------------------|-------|-------|-------|
| | 2003 | 2002 | |
| Losec™/Prilosec™ (オメプラール) | 692 | 1,192 | -45 |
| Nexium™ | 835 | 347 | +136 |
| Total | 1,545 | 1,552 | -3 |

- Nexium™の米国での売上高は135%増、6億6900万ドルでした。また、同製品の第1四半期の総処方量は昨年と比べて68%増でしたが、この増加率の差は主に卸在庫の調整によるものです。米国におけるPPI製剤の総処方量のマーケットシェアは引き続き伸長し、3月に21.4%に達しました。PPI製品の総処方量は対前年同期と比較して、14%増加しました。
- 米国以外でのNexium™の売上高は142%増、1億6600万ドルでした。
- Nexium™に関して、非ステロイド性消炎鎮痛剤 (NSAIDs) 投与患者における上部消化器症状の治療薬として承認申請を行ったことを4月1日に発表しました。
- Losec™/Prilosec™ (オメプラール) の売上高は45%減少しました。また、米国ではオメプラゾールの後発品の影響によりPrilosec™の売上高は60%減少しました。オメプラゾール製剤市場のPrilosec™処方量のシェアは3月には約40%でしたが、これは、後発品の供給が制限されているためです。
- 米国以外でのLosec™の売上高は22%減少しました。これは、オメプラゾール製剤の後発品の影響をうけたこととNexium™が引き続き順調に伸長したことによります。しかし、日本でのLosec™ (オメプラール) の売上高は好調で62%増加しました。

循環器

| | 第1四半期 | | CER % |
|---------------------------------|-------|------|-------|
| | 2003 | 2002 | |
| Zestril™ (ゼストリル) | 108 | 277 | -64 |
| Atacand™ | 206 | 149 | +31 |
| Seloken™ / Toprol-XL™ (セロケン) | 368 | 231 | +56 |
| Plendil™ (スプレンジール) | 110 | 106 | -1 |
| Total | 969 | 946 | -3 |

- 米国での Zestril™ (ゼストリル) の第1四半期の売上高は2000万ドルでした(89%減)。これは後発品lisinoprilが調剤された処方の90%以上を占めているからです。
- Atacand™の売上高は米国で44%増加しましたが、総処方量は対前年同期と比較して、19%増にとどまりました。2002年第1四半期の売上高も卸在庫の積み増しによりプラス影響を受けたため、本年3月末時点での卸在庫レベルが高かったことを示しています。米国以外でのAtacand™の売上高は20%増加しました。
- Toprol-XL™の米国における処方量は対前年同期と比較して31%伸び、ベータブロッカー全体の伸び率8%を大きく上回りました。売上高が、非常に好調であった対前年同期と比較して76%の伸び率(報告ベース)を示したことは、卸在庫レベルが通常よりはるかに高かったことを意味しています。

- Crestor™はカナダで2月19日に、オランダ、英国では3月に上市し、売上高は300万ドルとなりました。これらのマーケットにおける上市直後の反応は良好です。たとえば、カナダでは上市後8週間で、カナダのスタチン市場全体の40%を占める個人負担のスタチン市場で、約23.5%の新規処方マーケットシェアを獲得しました。残り60%の市場は政府のフォーミュラリーによる受け入れが必要です。当社は、このような早い段階での処方データを解析する際には注意が必要であると考えます。また、このデータを他の国々に外挿しないようお勧めします。

呼吸器

| | 第1四半期 | | CER % |
|------------------------|-------|------|-------|
| | 2003 | 2002 | |
| Pulmicort™ (パルミコート) | 251 | 227 | +6 |
| Accolate™ (アコレート) | 31 | 32 | -3 |
| Rhinocort™ | 90 | 63 | +40 |
| Oxis™ | 31 | 31 | -10 |
| Symbicort™ | 122 | 54 | +102 |
| Total | 563 | 442 | +20 |

- 欧州において急速に拡大している喘息の配合剤市場においてSymbicort™のマーケットシェアは引き続き好調で、約24%伸長しました。欧州におけるCOPD(慢性閉塞性肺疾患)治療薬としてのSymbicort™の相互認証手続きを完了したことを2月10日に発表しました。
- 対前年同期と比較して、米国におけるPulmicort™ Respules™(パルミコート)の処方量は34%、売上高(報告ベース)は56%増加しました。
- Rhinocort Aqua™の米国での処方量のシェアは点鼻ステロイド市場で3月に14%増、総処方量で37%増でした。売上高(報告ベース)は113%増で、在庫レベルが通常より高いことを示しています。
- 米国におけるAccolate™(アコレート)の売上高は5%増加しましたが、処方量は19%減少しました。卸在庫については第1四半期の初期に高かったレベルが、在庫の積み増しが続く、今後も高いまま推移すると考えられます。

オンコロジー

| | 第1四半期 | | CER % |
|------------------------|-------|------|-------|
| | 2003 | 2002 | |
| Casodex™ (カソデックス) | 189 | 123 | +44 |
| Arimidex™ (アリミデックス) | 93 | 65 | +35 |
| Nolvadex™ (ノルバデックス) | 61 | 140 | -57 |
| Iressa™ (イレッサ) | 19 | - | n/m |
| Faslodex™ | 22 | - | n/m |
| Zoladex™ (ゾラデックス) | 193 | 187 | -2 |
| Total | 581 | 520 | +6 |

- Casodex™(カソデックス) 150 mg 錠の早期前立腺がんへの使用拡大が寄与し、米国以外の市場で第1四半期の売上高は26%増、1億2900万ドルに達しました。2002年の第1四半期に在庫調整が行われたため、昨年と比較して米国の売上高は100%増加しました。2003年第1四半期末の在庫レベルは通常レベルに近づいています。米国におけるCasodex™の需要にはほとんど変化はありません。
- 早期乳がんの術後補助療法剤としての適応拡大によりArimidex™(アリミデックス)の売上高は世界各国で伸長しました。米国以外での売上高は41%増加しました。米国での総処方量は対前年同期と比較して、64%増加しました。在庫の変動により売上高(報告ベース)は27%増加しました。

- Nolvadex™(ノルバデックス)の米国における独占販売権は2月で失効し、その後、後発品数製品が上市されました。米国での売上高は71%減少しました。
- 米国におけるFaslodex™の売上高は第1四半期で2200万ドルに達しました。昨年の5月に上市以来、着実に使用が拡大しています。
- Iressa™(イレッサ)の売上高は1900万ドルに達しました。日本で2002年第4四半期に上市后、売上高が急速に伸長した後、減少傾向にあるのは蓄積されていた需要が満たされたためです。しかし、第1四半期の売上高が減少したのは間質性肺炎・急性肺障害の市販後副作用報告により添付文書の改訂が行われたことも影響しています。
- 限局型進行性または転移性非小細胞肺癌の治療薬としてIressa™の承認申請を欧州で2月に行いました。米国におけるFDAによるIressa™の承認審査は、処方薬ユーザーフィー法(PDUFA)によると、5月5日までに完了する予定です。

中枢神経

| | 第1四半期 | | CER % |
|-------------------|-------|------|-------|
| | 2003 | 2002 | |
| Seroquel™ (セロクエル) | 444 | 329 | +33 |
| Zomig™ (ゾーミグ) | 108 | 92 | +13 |
| Total | 560 | 428 | +28 |

- 米国以外の国における Seroquel™(セロクエル)の売上高は日本での力強い成長を含めて79%増加しました。
- 米国におけるSeroquel™の総処方量は2002年の第1四半期に比べて36%増加しました。Seroquel™のマーケットシェアは競合新薬の上市があつたにもかかわらず、3月には18.4%に達しました。米国でのSeroquel™の売上高は26%増加しました。今期も2002年第1四半期も卸在庫の積み増しが行われました。すなわち、第1四半期末の流通在庫は通常のレベルを上回っています。
- 米国、欧州において、Seroquel™の双極性障害を伴う躁病の治療薬としての承認申請を行いました。
- 米国におけるZomig™(ゾーミグ)の売上高は17%増加、米国以外では6%増加しました。米国での売上高は昨年の第1四半期も今期も処方需要を上回りました。

疼痛、感染症ほか

| | 第1四半期 | | CER % |
|--------------------|-------|------|-------|
| | 2003 | 2002 | |
| Merrem™ | 74 | 67 | +10 |
| Diprivan™ (ディプリバン) | 136 | 111 | +19 |
| 麻酔領域の製品 | 101 | 96 | -1 |
| Total | 377 | 342 | +5 |

- 米国におけるDiprivan™(ディプリバン)の売上高は昨年の第1四半期と比べて53%増加しました。これは市場の拡大と価格の変更を見込んで卸在庫の積み増しが行われたためです。

地域別売上高

| | 第1四半期 | | CER % |
|--------|-------|-------|-------|
| | 2003 | 2002 | |
| 米国 | 2,470 | 2,383 | +4 |
| 欧州 | 1,555 | 1,387 | -2 |
| 日本 | 243 | 172 | +32 |
| その他の地域 | 467 | 404 | +19 |

- 卸在庫の変動を別にすると、米国における需要はNexium™、Toprol-XL™、Seroquel™の売上高の力強い成長につながり、後発品との競合による売上高の減少を一部相殺しました。
- 欧州における売上高は2%減少しました。フランス、イタリアでの販売数量の伸びは、イタリアでの価格の低下および英国での後発品との競合により相殺されました。Nexium™、Symbicort™、Seroquel™、Casodex™、Atacand™が主な成長製品でした。
- オンコロジー領域の製品 (35%増)ならびにSeroquel™、 Losec™ (オメプラール) が日本では売上増を推進しました。

営業レビュー

売上高は4%増加、営業利益は3%減少しました。営業利益率は2.9ポイント減少しました。これは、2002年第1四半期には米国におけるSularの販売権の売却益を含む売却益を計上しましたが、今期は売却益が発生しなかったためです。この売却益を除けば、第1四半期の営業利益率は対売上比率26.8%、営業利益は8%増となります。

その他の要素で営業利益率が0.4ポイント改善されたのは、研究開発費、販売費・一般管理費がわずかに増加しましたが(研究開発費で0.5ポイント、販売費・一般管理費で0.3ポイント)、売上総利益率の改善がその増加分を上回ったためです。売上総利益率はメルク社への支払い比率の低下などの好影響を受け、対売上比率1.2ポイント増の76%となりました。

米ドル安により、売上高に5%、営業利益には1%の好影響、また営業利益率は約0.7ポイントのマイナス影響を受けました。今年度は為替変動による利益への影響はほとんど無いと予想されます。

近年、第1四半期の特徴として価格の引き上げを見込んで卸が投機的に購買する傾向があります。2003年第1四半期末の卸在庫は通常レベルより約4億ドル高いと推測していますが、昨年の第1四半期末には通常より約2億ドル高いレベルにありました。2003年第1四半期は主にNexium™、Seroquel™、Toprol-XL™、Atacand™が影響を受けました。この過剰在庫は第2、第3四半期に解消され、通年の売上高にほとんど影響しないと予想されます。

利息

第1四半期の受取利息は、投資に対する低い利回りによって全体的にキャッシュバランスが高かったため、2,100万ドルとなりました。

税金

実効税率は、2003年第1四半期は27.5%、前年同期は27.0%でした。

キャッシュフロー

例外的損益項目控除後の営業活動によるキャッシュフローは第1四半期12億ドルで、前年同期は19億ドルでした。その差異のほとんどはメルク社への支払時期の違い(2002年第1四半期にはこの支払は発生しませんでした)、また、今期の高い売上高から生じた受取勘定によるものです。2003年第1四半期の設備投資額3億ドル、納税額2億ドル、株の買い戻し費用1億ドルを差し引いた後の正味キャッシュファンドの増加額は5億ドルをやや下回る額でした。第1四半期末の正味キャッシュファンドは43億ドルでした(2002年第4四半期は38億ドル)。

株の買い戻しプログラム

第1四半期中に総額1億2900万ドルで普通株式404万株(額面0.25ドル)が買い戻され消却されました。

本プログラムがスタートしてから、買い戻し消却された株の総数は現在7060万株となり、買い入れ金額は29億6800万ドルとなりました。2003年3月31日現在、発行株式数は17億1500株です。先に発表された今年度の株の買い戻しプログラムに基づき、買い戻し資金は約10億ドル残っています。

今後のマイルストーンおよび主なイベント

| | |
|--------|-----------------|
| 7月24日 | 第2四半期業績発表 |
| 10月2日 | アニュアル・ビジネス・レビュー |
| 10月23日 | 第3四半期業績発表 |

トム・マキロップ
最高経営責任者